

葦

人間はひとくきの葦にすぎない自然の中でもっとも弱いものである
十日町地域退職者連合

2021年3月15日

市議会に私たちの声を！

四年ぶりに十日町市議会議員選挙が行われます。全国的な人口減少の中、少子化・高齢化対策、学区再編、医療・福祉の充実などの課題に私たちの声を届け、行政をチェックする議員の必要性は喫緊の課題です。

十日町市議会議員選挙に向けて当会に推薦依頼があり、幹事会で審議し

滝沢貞親氏（当会幹事・県高校退職者の会）・高山共栄会副会長の

小林正夫氏（現十日町市議会議員）

の推薦を決定しました。会員の皆様からご支援をよろしく願います。

市議選勝利を目指して



滝沢 貞親

四月十八日告示、二五日投開票の十日町市議選出馬を決意し、決戦の日まで残すところ二ヶ月足らずとなりました。現在、選挙用パンフレットや通信（二月、二月号）の配布、地域内の様々な方々との懇談など、より多くの意見を聞き、自分の思いを訴えています。

みんなが求める十日町市の将来像、安心して住み続けられるために必要なことは何か。元教員であったことを生かして、子どもたちを取り巻く教育状況の把握と改善。また十日町市の良い点の再発見と、その組み合わせでの新しい産業の創造・育成・発信によって人口減対策へ繋げていきたいと考えます。

微力ではありますが、懸命に努力していく覚悟です。ご支援をよろしく願います。

“楽しく元気なまちづくり”



小林 正夫

この度の市議選に向けて、十日町地域退職者連合様のご推薦に心から感謝申し上げます。前は、落選からの挑戦という厳しい戦いを皆様から押し上げていただいたの当選でありました。それだけにこの四年間は充実した議会活動ができたと思っております。

私は、豪雪や過疎化による人口減少を食い止めることを念頭に活動しております。地域に暮らす子供たちや若者そして弱者の方も誇れるまちになるように活動を進めてまいります。

私は、退職者連合の皆様や知識や経験豊富なお年寄りが、生きがいをもって生活できることを政治信条に活動を進めてまいります。

皆様のお力添えを心からお願い申し上げます。



梅谷 守

(立憲民主党新潟県連合第六区総支部長)

「政治は変えられる!」

日頃のご支援に心から感謝申し上げますとともに、このような機会を賜りましたこと深く御礼申し上げます。

国政選挙初挑戦から今日まで、私は十日町・津南地域をコツコツ回らせて頂きました。多くの声を頂戴し、課題に直面しました。建設業をはじめとする主要産業の人材不足、企業の後継者不足や農業の高齢化と担い手不足を危ぶむ声、地域の医療の確保を切望する声、若者に対し安定した雇用の場の創出を求める声、医療・

年金・介護が満足に受けられず苦しむ生活者の声、高齢者の高齢化が進む山間集落のあり方など。共通するのは、希望が陰り不安が覆う姿です。

政治がなすべきは、根っこに横たわる不安を刈り取り、「安心」が私たちを温かく包みこむ社会に導くことです。また、このコロナ禍においては、「国民に命の不安をもたせない」経済対策を大胆に行うことです。

私がバツジをつけさせて頂いたならば、新型コロナウイルス対策に対し大胆な財政支出と消費税減税をはじめとする具体的な政策を引き出して参ります。併せて、我が国の人口を上昇志向に反転させる見通しを示すよう政府に迫るとともに、政策の優先順位を変え、今まさに困って苦しんでいる一人ひとりに軸足を置く政策に切り換えることで、暮らしに安心と希望をお届けして参ります。

私は政治に縁のない家庭で生まれ育ちました。政治家を志したとき、そこに至る道が明確でなく、政治を雲の上の存在と感じていました。しかし、国家試験合格というきっかけをつかみ政治の世界に入る事ができました。そこでわかったことは、「政治は変えられる!」というこ

とです。そのうえで大事なことは、変化をおそれず挑戦すること。皆さんから支え頂きチャレンジしつづけることで、子や孫の世代により良い日本の未来をつなげたいのです。

今こそ政治を変えなければなりません。政治を変える力を私にお寄せ下さい。一緒に、よりよい日本の未来、よりよい十日町・津南地域を築きましょう。

編集後記

会報第十二号をお届けします。

コロナウイルス感染症の収束の目途が立っていません。感染者の早期発見のPCR検査の拡充や医療体制の充実など強化を望む声が多いのみのかかわらず、いまだ進んでいません。

国会を開かない。質問にもまともに答えない。有効な対策を打ち出せない現自民党政権にうんざりしています。

今年選挙の年。四月の市長選挙・市議会議員選挙、十月までに衆議院選挙があります。市政・県政・国政選挙に関心をもち、「政治は変えられる」を合言葉に、みんな投票に行こう。(I)

